

第1日曜日
主日第一礼拝 9:00~
主日第二礼拝 10:30~
その他の日曜日
教会学校 9:00~
主日第一礼拝 9:00~
主日第二礼拝 10:30~

日本基督教団 麻布南部坂教会会報

2023 (令和5年) 1. 15

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03(3473)1276
E-mail church@nanbuzaka.com https://www.nanbuzaka.com/



印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

祈禱会
第2日曜日 礼拝後
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

「神の明かされる秘密」

牧師 松谷 祐二

ダニエル書 第二章二四〜二九節

それから、ダニエルはバビロンの知者皆殺しの命を受けていたアルヨクのもとに行つて、こう言った。「バビロンの知者を殺さないでください。わたしを王様のもとに連れて行つてくだされば、王様に解釈を申し上げます。」そこで、アルヨクはおそろおそろダニエルを王のもとに連れて出て、こう言った。「ユダの捕囚の中に、一人の男が見つかりました。王様に解釈を申し上げると言っております。」王はベルテシャツアルの名を持つダニエルに尋ねた。「わたしの見た夢を言い当て、それを解釈してくれると言うのか。」ダニエルは王に答えた。「王様がお求めになつておられる秘密の説明は、知者、祈禱師、占い師、星占い師にはできません。だが、秘密を明かす天の神がおられ、この神が将来何事が起こるのかをネブカドネツアル王に知らせてくださいなのです。王様の夢、お眠りになつていて頭に浮かんだ幻を申し上げます。お休みになつて先々のことを思いめぐらしておられた王様に、神は秘密を明かし、将来起こるべきことを知らせようとなさつたのです。」

初夢をご覧になつたでしょうか。縁起の良い夢を見たら、その一年は良いことがある、というように昔から言い伝えられて来ました。夢のほかにも、おみくじ、占い等、将来何が起こるのかを知ろうとする手立てが、わたしたちの文化の中には少なからずあります。それらは、将来を正確に知りたい、というより、どちらかというところ、この先は良いことが起こると信じたい、事態を良いほうに解釈したい、という願望から来ているような、「一寸先はどうなるか分からない」という不安の裏返しであるような、そんな気がします。

聖書に登場する古代の人々も、将来について多くの不安を抱き、夢を氣にしました。バビロンという文明国でも、占い師、祈禱師、まじない師、

賢者といった人々は、夢や星の動きによつて、将来起こることを解釈できると期待され、高い地位を得ていました。

バビロンの王ネブカドネツアルは何度か夢を見ましたが、意味が分からず不安に駆られます。知者たちを呼び出しますが、自分の見た夢の中身を語ろうとせず、なんと「わたしの見た夢を言い当てよ、その上で解釈せよ。できなければ皆処刑する」と厳命したのです。もしかしたら王は、いつもご機嫌取りのような都合の良い解釈ばかり聞かされて続けて、かえつて不安と猜疑心のとりこになつていたのかもしれない。このままではバビロンの知者らは皆殺しにされてしまいます。

殺される定めとなつた知者の中にダニエルがいました。彼は、戦争でバビロンに負けたユダの国から捕囚として連れてこられ、しかし優れた知恵と理解力のゆえに宮廷で仕えるようになっていた若者です。彼は、王の夢の秘密を求めて真剣に神に祈り、神は答えてくださいました。そこでダニエルは王に拝謁を願ひ、夢とその解釈——この後続いて起こる多くの国々の興亡について——を王に語り聞かせます。それは、世のすべてを支配したもう天の神が秘密を明かしてくださいるのでない限りは、知り得るはずのない事柄でした。

神が秘密を明かされることを、キリスト教用語では「啓示」と言います。神は啓示される神です。わたしたちは、夢を見、星を見ては、何とか自分に都合よく解釈しがります。しかし本当は、神の啓示こそが重要であり、神が明かしたもう秘密とその解釈こそ、わたしたちが真剣に聞き、知るべきものなのです。

この、神が明かしたもう秘密をわたしたちに聞き聞かせるためにこの世に来られたのが、イエス・キリストでした。ダニエルはバビロン以降のいくつかの国々の興亡についての秘密を神から明かされましたが、イエス・キリストがわたしたちの世に来て明かされたのは、「神の国」の秘密でした。今や、神がこの世に来ておられる。神の国が地上を覆わんとしている。神の敵、サタンは滅ぼされ、罪深い人の支配が終わり、義と愛とに満ちた神のご支配が始まるうとして——。

地上の人間がいかに反抗し、支配者たちが結束しても、神の国、神のご支配には勝てません。それどころか、そんな事態になりつつあるという現実に、氣づくことすらできないのです。イエス・キリストが来てお語りになると、その言葉に真剣に耳を傾け、信じる者には、神の国はその姿をあらわします。神の国は「秘密」なのです。

神の子イエス・キリストの到来とともに、神の国が来ています。この方が十字架の上で命をささげ、わたしたち人間の罪の代償、神からの罪の赦しの保証となられたとき、神の国のいしずえが堅く据えられました。この方が復活され、天の御座に着かれたとき、神の国の門がわたしたちのために大きく開かれました。わたしたちも、このわたしも、この神の国に招かれている。イエス・キリストの十字架と復活の恵みによつて、わたしも神の民、神の子らとして生き始めることができる。これこそ、どんな運勢、運命についての説よりもわたしたちが信じて大切に心に受け入れるべき、神の啓示、神の明かしたもう秘密です。

ルカによる福音書 第一〇章一七〜二二節

七十二人は喜んで帰つて来て、こう言った。「主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します。」イエスは言われた。「わたしは、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見ていた。蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を、わたしはあなたがたに授けた。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つない。しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んでほならない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」そのとき、イエスは聖霊によつて喜びにあふれて言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに、子がどういふ者であるかを知る者はなく、父がどういふ方であるかを知る者は、子と、子が示そうと思ふ者のほかにほだれりません。」

はじめまして

岩 淵 芽 生

岩淵芽生（いわぶちめお）と申します。降誕祭礼拝の日に、この麻布南部坂教会において洗礼を授かり、みなさまの仲間に加えていただいたことは、誠に大きな喜びです。ありがとうございます。

現在私は、三鷹市にあるルーテル学院大学のキリスト教人間学コースに在籍しております。ルーテルは、小規模ながら緑の多いキャンパスを持っており、大学生活を送るのに適した穏やかな環境にあります。対面授業が再開されてからは、他の学生や先生方との距離も縮まり、大学で学ぶ醍醐味が少しずつ感じられるようになりました。さらに、キャンパスクリスマスを通して、同じくキリスト教を学んでいる学生たちと言葉を交わす機会も得ることができました。それは、今まで学校での人付き合いやイベントごとを避けがちだった私にとって、全く新しい経験です。

数年前まで自分がキリスト信徒になろうとは予想だにしていませんでした。西洋音楽を学んでいたことや読書の影響で、キリスト教への関心は抱いていたものの、自らの信仰の問題についてはほとんど考えませんでした。日本語文化圏で育ってきた自分と一神教信仰の間に、あまりに大きな隔たりのようなものを感じていたからです。しかし、学びの中でその障壁は徐々に消

えていきました。「勉強」することによって信仰に至るというのはそれまでの人生においては思いもよらなかったことなのですが、それが本当であると身をもって知りました。このことを振り返るとき、予備校時代の恩師の影響を抜きにして語ることはできません。ご自身もクリスチャンでいらっしゃるその恩師の講義を日々受けていたことこそ、私がいかに教会の門を叩く最初のきっかけとなったのです。

そしてもちろん、松谷牧師との出会いも重要な出来事です。およそ一年にわたって、勉強会及び受洗準備会の場を設けてくださったことに心から感謝いたします。神さまは、まさに松谷牧師の導きを通して、私の信仰を強めてくださいました。

受洗を終えて教会の皆さまにお祝いのお声をかけていただいたときには、とても温かい気持ちでした。また、受洗に際して、大学でお世話になっていらっしゃる方が礼拝に駆けつけてくださったことや恩師からのお祈りのメッセージ、友人たちからの「おめでとう」という言葉などの全てが、信じる者として生きる新たな人生を勇気づけてくれたいると感じます。

イエスさまに連なる教会の一員として、その責任を果たしてまいりたいと願っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

報 告

*十一月六日(日)は「聖徒の日」でした。礼拝後、昨年度天に召された森民代姉を偲ぶ会を持ちました。

*十一月二十日は収穫感謝日・謝恩日でした。当日の席上献金は「謝恩日献金」として日本基督教団年金局に送りました。

*十二月二十五日(日)、降誕祭礼拝の中で、岩淵芽生さんの洗礼式を執り行いました。主の祝福を心からお祈りいたします。

*ヤング肇子姉のお母上が十二月二十一日(水)、逝去されました。ご遺族のためにお祈りください。

*麻布南部坂教会のホームページの内容が新しくなりました。是非ご覧ください。
<https://www.nanbuzaka.com/>

《各部報告》

成人会

日 時…十一月二十日 主日礼拝後

場 所…教会堂会議室

出席者…四名

開会祈祷…ヤング肇子神学生

内 容…エゼキエル書十四章～十六章

悪であることを感じなくなり(偶像礼拝)、偶像を心に抱く者には主、自ら預言者に代わって答えよう(最終の裁き)と言われる。ユダの人々を役に立たないブドウの木と例えられ、実に厳しくユダの背信を

告げられるが、神の厳しさには慰め(恵み)がある。

(ヤング肇子 報)

次回は十二月十八日

エゼキエル書十七章～十九章

婦人会

日 時…十一月二十七日 主日礼拝後

場 所…教会堂会議室

出席者…五名

開会祈祷…佐藤マリエ姉

内 容…列王記(上)十七章～十九章

ユダ王国のアハブの治世、妻イザベルによって持ち込まれたバアルとアシエラの偶像礼拝が横行していた。預言者エリヤに主の言葉が望み、エリヤはヨルダンの東に行き留まったが、預言通り干ばつになり、再び、シドンのサレプタに行くよう主の言葉を受け、やもめのもとに身を置いた。やがて主の言葉によりイスラエルに帰り、バアル(とアシエラ)預言者八百五十人とカルメル山で対決し勝利した。しかしイザベルの言葉を恐れてホレブにエリヤは逃れた。

(ヤング肇子 報)

十二月二十五日 休会

